

【基礎情報(事務局用)】

設立年		代表者	大場茂生
実習担当 責任者	氏名：浜根利明	連絡先	電話：465-8149 メール： hama1113@st.ritsume.ac.jp
実習先 所在地	以学館西側		
実習先 部署	衣笠キャンパス地域連携課		
職員数	正職員： 人(有給/無給) / アルバイト： 人(有給/無給) インターン： 人(有給/無給) / ボランティア： 人(有給/無給) その他： 人(有給/無給)		
設立趣旨 あるいは 活動理念	Uni-Com ~UniversityからCompostを広めよう~ 地域単位で食品ロス(生ごみ)を資源として循環させ、人の繋がり、地球の資源、身近なものから循環をつくりだすことで次の世代へといのちのバトンを繋ぎます		
主な 活動内容	学生団体Uni-Comとともに学食で発生する食品ロスをつかった完熟堆肥づくり		
ボランティア 受入実績	2021年度に中学生から大人に至るまで食品ロスを看過できない課題意識を持った方を多数受け入れてきました。		

【活動にあたってのリスクの想定】

	予想されるリスク	予防策・対応方法
1	なし	なし
2		
3		

【教育プログラムでの過去のトラブルと実際にとった対応】

	過去のトラブル事例	実際にとった対応
1	なし	なし
2		
3		

受入団体名:衣笠キャンパス地域連携課

団体プログラム名:Uni-Comプロジェクト～食品ロスでつくる完熟堆肥プロジェクト～

募集人数

5名程度

<活動期間:2022年10月7日～2022年11月25日 活動日数:8日程度>

<活動日or 活動パターン>

■週1日程度・定例、□月1～2回・不定期□その他

<主な活動場所>

衣笠キャンパス

<活動の流れ>

日時	活動内容
10/7(金)	食品ロスの実情説明、その課題解決に向けた完熟堆肥の作成方法説明、メディアの評価紹介
10/14(金)	一次処理体験と床材づくり
10/21(金)	一次処理体験、床材の発酵状況体感(放線菌の菌糸網)
10/28(金)	二次処理体験、床材の発酵状況体感(放線菌の菌糸網)
11/4(金)	一次処理体験、二次処理体験
11/11(金)	完熟堆肥の活用事例体験(きぬがさ農園等)
11/18(金)	一次処理体験、二次処理体験
11/25(金)	堆肥として農業に活用するための行政手続き等

<キャンパスからの交通手段>

<活動に必要な費用>

無料

<参加の姿勢>

朝日、産経、NHK京都、MBS毎日放送が採り上げてくれた最先端のSDGs

活動を行っている誇りをもって参加してください。

<コミュニケーションの手段>

■電子メール □Facebook

■LINE ■電話

□その他()

<活動のテーマと主な内容>

学生団体Uni-Comとともに学食で発生する食品ロスをつかった完熟堆肥づくり

京都市のしまつのこころ条例に基づき、衣笠キャンパスではごみの分別と総量削減に取り組んできました。分別は学生の皆さんのご協力もあって進んでいますが、ごみの総量削減というのはなかなか困難な課題でした。まずは、落葉を腐葉土にすることから始め、次にターゲットにしたのが食品ロスでした。堆肥にしようとしたものの有効な作成方法が見つからず、苦戦していましたが、学生団体Uni-Comが「大学SDGs ACTION! AWARD2021」で準優勝した際の構想の中に掲げた食品ロスをつかった完熟堆肥づくりの方法が私たちには最適のように思われたのと、構想だけで実装できていなかったUni-Comと思いが一致したため協働で取り組むことになりました。

<活動する現場で学生が求められる背景(理由)>

ロシアによるウクライナ侵攻により、農業用肥料の原料価格も高騰するとともに、輸入すら滞ってきています。そのような状況にあって自前の材料で堆肥を作るという活動を大学が取り組んでいるということに行政もメディアも注目してくれています。学内よりも学外の方が方が問題意識が高く、活動に取り組む私たちが学内をイニシアティブしていくのだという意識をもって取り組んで欲しいと思っています。

<学生が期待できる学び>

食品ロスは食料自給率30%台の国にとって許されないことであることを体感できますし、それを生ごみとして捨てるということは温室効果ガスを発生させることにつながるということを体感できます。また、活動趣旨に賛同いただいた方々から床材の資材である壁土、米ぬか、粃殻などをご提供いただいています。色んな方の支えがあって活動できるということも体感していただけます。

